

第七十四回フォト句優秀作品（29年6月13日）



惜春の吐息にゆらぐ吊灯笼（アキヤ）



トランプの大ほら口もいずれ骨（昌康）



足枝は大化の御代より身を助け (健夫)



宴の灯

川面にぎわす

舌鼓 (三春)

寸 評：

1) 光芒やロマンと物理の散歩道 池田 隆

白河市郊外の南湖での風景。厚い雲間からの光芒を撮り、**ロマンと物理の散歩道**と洒落た句をつけた。

2) 惜春の吐息に揺らぐ吊灯笼 中村 晃也

上野の美術館で開催された春日神社展でのスナップ。吊灯笼は**妾**を意味する隠語だと知ると句の意味が深いことが判る。

3) ほっといてすきなの日陰私たち 田中 みづえ

地表を覆っている十薬（どくだみ）を詠んだ。句はやや稚拙だが、新入会員としての健闘を称えたい。

4) トランプの大ほら口もいずれ骨 松田 昌康

あんぐりと開いた大鮫の口からトランプ大統領の大ホラを連想した。

5) 足技は大化の御代より身を助け 下山 健夫

綺麗な衣装を身に付け優雅に蹴鞠を楽しむ動きのある風景は、背景の緑の林と相俟ってなかなかのもの。説明的な句に再考の余地があるが。

6) 宴の灯川面にぎわす舌鼓 三 春

南国の水上レストランは情緒があるが、写真も句も作者にしては平凡。



今月は大越さんの出題。軽井沢の骨董屋の店先だそうだ。

1) 赤提灯に寄って帰れば般若待つ 松田 昌康

家で待つ奥方を般若とは！画像の中の二つの主題を上手く捉えた。

2) 日が落ちて風吹き渡れば踊りだす 長尾 進一郎

お題写真の雰囲気に合わせて情緒的な句だ。画像中の題材には

触れずに雰囲気を出すことに成功している。

3) 売れぬまま軒に吊るされ恨めしい 清水 勝

いつも通り素直な句。ギャグも叙情も感じないが・・・。

4) ガラクタも家宝に化ける鑑定書 三 春

テレビのお宝鑑定団に影響されている。

5) 妖怪に暖簾分けして左前 三 春

何を言っているのかよく判らないが・・・。

6) 緑陰に老いの古傷踊りだす 新田 由紀子

十七文字の句より長い説明を聞かないと句意がわからない。

お題写真の焦点がはっきりせず、常連が苦吟し気の利いた句が乏しかった。

番外ではあるが、

ゴチャゴチャと何のことやら解りません 矢澤 正二

の句が本音のようです。